

本県ゆかりの文学作家を顕彰し、高知の文学の魅力を伝えるとともに、県民の文学への関心を高める

要求水準－収集・保存

収集方針に基づき県関係の作家の資料を収集し、適切に保存する

評価項目

(1) 作家や関係者との信頼関係を築き、特色のある資料の充実に努める

状況説明

所蔵資料は平成26年度末時点で65,565点、前年度末から1,430点の増加となった。

【平成26年度収集資料】

1 主な寄贈

寺田寅彦関係資料・故寺田弥生氏(次女)の日記

大町桂月関係資料51点

現役作家・藤原緋沙子氏著作本等65点

2 主な寄託

現役作家・山本一力氏直木賞懐中時計、愛用品、ゲラ原稿等30点

3 購入資料

寺田寅彦書簡

物理学が人間の五感を踏まえながら、さまざまな学問と融合していくことへの期待を述べ、そうした未来を考える自身を「自由な私」と表現している大変貴重な資料。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・作家や関係者と良好な関係を構築し、資料の寄贈・寄託につなげている。 ・購入資料については、予算を調整し、迅速に対応した結果、取得することができたものであり、評価できる。

評価項目

(2) 資料の整理・分類、点検・劣化防止等の処置を適切に行う

状況説明

1 体制の確保

資料班において契約職員 2 名が専属で担当し、着実に保存整理を進めている。

2 展示保存の技術・意識の向上

・25 年度に受講した資料の適正な保管および展示のための環境調査研修の成果を全職員に還元し資料の保存・劣化防止への意識を浸透させ、本年度から業務への実践を開始した。

・有害虫駆除の予防策(IPM)の活動の一環として、全職員が交代制で毎朝開館前 30 分に点検を実施し、展示環境に適さないものを発見した場合、ただちに対応し、環境の改善措置を行った。

・館内の全展示ガラスケースに有害虫侵入防止措置を実施した。

3 資料の整理・管理

博物館クラウド(I.B.MUSEUM SaaS)の本格的運用により、資料活用の効率化を図った。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none">・自主企画研修による積極的な職員の資質向上が図られている。研修の成果を職員全員で共有し、業務への実践が行われ、展示・保存環境の改善に成果が見られる。・資料整理にかかる体制を確保するとともに、博物館クラウドの運用により、円滑で効率的な資料の活用ができています。

要求水準－調査・研究

高知の文学や作家について研究を進め、その成果を公開する

評価項目

(1) 職員の専門性の向上を図るとともに、高知の文学や作家に関する調査研究を進める

状況説明

1 所蔵資料の調査研究

所蔵資料を体系的に分類・整理しながら、顕彰作家や作品の調査研究を行っている。

2 企画展のための調査

本県ゆかりの現役作家「山本一力展」と「中脇初枝展」を開催するにあたり、作家本人、出版社、関係者及び出身地等の取材調査を行った。

また、「北欧文学との出会い展」では文献調査や現地取材を行った。

3 県内外の文学館施設の交流

全国文学館協議会、瀬戸内文学館連絡協議会、こうちミュージアムネットワーク等の情報交換や研修会への参加を通じて、職員の専門性向上に資する活動を行った。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none">・所蔵資料の調査研究に継続して取り組み、顕彰作家のローテーション展示等に向けた基礎資料とした。・企画展の開催にあたり必要な調査を、作家本人や関係先のご協力のもと円滑に進めた。

意見

・現役作家との関係性をよく保っている。

評価項目

(2) 研究活動の成果を、企画展や広報媒体などを活用し、広く公表する

状況説明

1 常設展における公開

調査研究の成果を基に、常設展示のローテーション方式での入れ替え展示や企画コーナーの展示を行った。

常設展示(安岡章太郎、上林暁、橋田東声、浜本浩)

常設企画コーナー(「坂東真砂子追悼展」、「片岡文雄追悼展」)

寺田寅彦記念室(全国文学館協議会共同展示テーマ「寺田寅彦と地震」)

宮尾文学の世界コーナー(「クレオパトラ」の世界)

2 企画展における図録製作

26年度は顕彰作家をテーマとした「山本一力展」と「中脇初枝展」を開催し、調査研究の成果を図録にまとめ、発行した。

3 常設展示室の計画的充実

26年度は映像コーナーに新たに「寺田寅彦」、「上林暁」のストーリーを加えた。

4 文学研究誌等への寄稿や講演

「正岡子規と日本の景物」同人俳句「勾玉」に連載(H26.4～27.3)

論文「宮崎夢柳『自由の凱歌』の行方」を高知近代史研究に掲載(H26.12)

高知大学国文学講座 講演「寺田寅彦の連句」(H26.11)

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none">・研究活動の成果を、常設展におけるローテーション方式での展示や、企画展における図録製作などにより、広く公表した。・また、研究論文を文学研究誌等へ寄稿したほか、講演発表を行った。

要求水準－展示・公開

優れた文学作品に触れる機会を提供し、文学の楽しさを伝える

評価項目

(1) 新鮮さと変化が感じられる常設展示や、時代の変化を踏まえ、様々な年代の知的好奇心に触れる企画展示を行い、5年間で10万人以上の観覧者を目指す

状況説明

1 常設展示

本県ゆかりの作家を一堂に顕彰している常設展示室では、ローテーション方式でクローズアップ作家を入れ替え、常に新鮮さに配慮した展示を行った。

- ・常設展示クローズアップ作家(安岡章太郎、上林暁、橋田東声、浜本浩)
- ・常設企画コーナー(「坂東真砂子追悼展」、「片岡文雄追悼展」)
- ・寺田寅彦記念室ミニ企画コーナー(「寺田寅彦と地震」:全国文学館協議会共同展示の一環)
- ・宮尾文学の世界(「クレオパトラ」の世界)

2 企画展示

次の企画展5件を開催した。5本のうち2本は本県ゆかりの作家に関する内容とし、土佐文学の魅力を紹介するとともに、幅広い年代の知的好奇心に触れる展示を行った。

- ・高知ゆかりの作家の顕彰展「山本一力展～明日は味方だ～」(観覧者数2,578人)
「中脇初枝展～ちゃあちゃんの里帰り」(同 1,166人)
- ・夏休み親子向け企画「メニーメニーミッフィープレミアム展」(同 9,830人)
- ・文学と入江泰吉氏の写真のコラボレーションによる企画「万葉集・こころの旅展」(同 2,483人)
- ・海外文学を紹介した「北欧文学との出会い展」(同 2,214人)

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none">・常設展示室の更新を行い、展示内容の新鮮さを保つことによって常設展示室の入室観覧者数は年々増加している。・企画展は、高知ゆかりの現役作家2人を取り上げ、時代小説と児童文学とジャンルは異なるが、郷土の文学的土壌が現在も豊かに受け継がれていることを伝えることができた。・ビジュアル(写真)と文学とのコラボレーションや注目の海外文学など異なる分野・地域性のテーマを取り上げ文学ファンのすそ野を広げる工夫が見られる。

評価項目

(2) 次代を担う子どもたちに喜びと感動を与え、創造性豊かな心を育む企画展示を行う

状況説明

- ・平成26年度は、親子や子どもたちが楽しめる夏休み企画として、「メニーメニーミッフィープレミアム展」を開催し、世界中で愛されているミッフィーの絵本の世界をパネルや立体資料でわかりやすく紹介した。
- ・「北欧文学との出会い展」では、幻想的な神話の世界を体感できる工夫を凝らした展示を行うとともに、日本でも親しまれている北欧の物語を印象的に紹介した。
- ・寺田寅彦記念室における全国文学館協議会との共同展示「文学と天災地変」では、子ども向け解説を充実させるとともに、実験コーナーを設置し、子どもたちの関心を高める展示を行った。

評価	理由
A	・子どもたちにとって、身近な絵本や外国の物語などをテーマに企画展を開催し、その魅力を体験できる展示や空間演出により、子どもたちの創造性豊かな心を育んだ。

評価項目

(3) ギャラリートークの実施など、来館者の理解が深まる取り組みを行う

状況説明

- ・企画展開催中は、毎週担当学芸員によるギャラリートークを実施した。
(H26実績 100回 延べ参加者数 1,507人)
- ・年間を通じて、団体等の来館時には、担当者による展示解説を実施した。
- ・「北欧文学との出会い展」では、各国の大使館や観光局とのタイアップ、フィンランド楽器(カンテレ)の演奏会、手作りヒンメリ(モビール)、北欧家具店とタイアップした展示など観覧者がより臨場感を持って体感できる様々な工夫を凝らした。
- ・文学館のある藤並の森を舞台に“木漏れ日コンサート”を開催し、音楽とのコラボレーションにより文学作品の時代背景や雰囲気を感じてもらい取り組みを行った。

評価	理由
A	・担当学芸員によるギャラリートークや解説などを積極的に実施し、展示だけでは知ることのできない内容を直接伝えることにより、来館者の理解が深まる取り組みを行った。 ・音楽とのコラボレーションによる“木漏れ日コンサート”は、文学ファンのみならず、音楽愛好家も巻き込んだ意欲的な試みとして評価できる。

要求水準－教育・普及

様々な年代を対象とした教育・普及活動を行う

評価項目

(1) 多彩な年代に応じた教育プログラムの実施により、来館者の文学への関心を高める

状況説明

県民に親しまれる文学館を目指し、様々なテーマで積極的な教育活動を展開し、延べ1万4千人を超える参加者があった。

【平成26年度実績】（開催回数・延べ参加者数）

文学カレッジ・文学専門講座等（10回 376人）

朗読の会（12回 458人）

児童生徒文学作品朗読コンクール（4回 869人）

記念講演会（企画展関連）（5回 934人）

ギャラリートーク（100回 1,507人）

語りと紙芝居の会（10回 141人）

おはなしキャラバン（91回 3,454人）

土佐近世文学研究会（49回 657人）

出張朗読会（2回 288人）

職員による講演会（17回 1,550人）

朗読講習（発表会）（1回 40人）

その他企画展関連イベント（32回 4,003人）

カルチャーサポーターの活動（205回 309人）

※ 延べ参加者総数 14,586人

評価	理由
A	・文学カレッジや専門講座、児童生徒文学作品朗読コンクールの開催をはじめ、職員の講師派遣やおはなしキャラバンなどのアウトリーチ活動を積極的に展開するなど、多彩な教育プログラムを実施した。

評価項目

(2) 文学活動に取り組む団体や個人の活動を支援し、文学活動の裾野を広げる

状況説明

- ・元NHKアナウンサーが講師を務める「朗読の会」、や作家市原麟一郎氏らによる「語りと紙芝居の会」では、発表の場を設け、受講者のスキルを高める取り組みを行った。
- ・古文書解読の上級者を会員として、所蔵の近世文学資料により「近世土佐文学研究会」を開催し、その活動を支援した。
- ・映像コーナーで制作した「上林暁」の映像DVDを上林暁文学館(黒潮町立大方あかつき館)に提供するなど、連携を図った。

評価	理由
B	・朗読者養成講習の実施や、文学研究会への館所蔵資料の提供などにより、文学活動に取り組む団体や個人の活動を支援した。

評価項目

(1) 高知の文学に関する戦略的な情報発信により、県内外に館の魅力を広める

状況説明

- 1 講演会への職員派遣
市民生涯大学・高齢者教室・教育関係者研修会等において講師をつとめ、土佐文学全般や展覧会について広く伝えることにより、広報を行った。
- 2 高知大学「地域協働学部」との連携
高知大学新設学部「地域協働学部」からのインターンシップの受入や講演の実施など、大学との関係が深まる取り組みを通じて、文学館のPRを行った。
- 3 広報媒体の活用
 - ・テーマに応じ、夏休み等タイミングを合わせた学校への重点広報を行った。
 - ・マスコミ等との良好な関係を構築することにより、あらゆる媒体を通じてタイムリーな情報発信を行った。
 - ・大学の研究誌や新聞の学芸欄(ex.「土佐文学へのいざない」20回)等への連載など紙面を通して高知の文学の情報発信を行った。
 - ・最新情報を随時ホームページで発信したほか、フェイスブック等も活用し、様々な角度から館の魅力を発信した。
 - ・「山本一力展」を開催した縁で、山本一力著「花あかり」(祥伝社文庫)の巻末解説の依頼を受け、書籍を通じた全国に情報発信ができた。

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども向け企画展にかかる機会をとらえた情報発信やホームページの活用など、積極的で戦略的な広報活動を行っている。 ・マスコミや出版社と良好な関係を構築し、情報発信力を高めている。 ・講演会などを通じて、高知の文学について広く伝える取り組みを行っている。

評価項目

(1) 県内外の他の博物館等と連携した事業の充実により、県民サービスの向上を図る

状況説明

- ・全国の文学館組織である「全国文学館協議会」や「瀬戸内文学館連絡協議会」へ加入しており、当該組織において情報交換など連携を図ることで、展覧会等での協力体制の円滑化や強化に役立っている。
- ・こうちミュージアムネットワークでは、県内の文化施設との連携や情報共有に努めた。
- ・各企画展において、関係する県外の文化施設(文学館、図書館、博物館等々)との資料の貸借りや情報交換を行い、幅広い資料の公開を行うことで、県民サービスの向上を図った。
- ・子ども企画などを扱っている民間会社などとの情報交換を密にし、時代のニーズや各社の企画などの情報の入手に努め、より魅力ある企画展の開催につなげた。

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・全国の文学館組織や県内文化施設等との連携を図り、資料の借用や情報の共有を行うことにより、より魅力ある企画展等の開催につなげている。 ・民間会社との連携により把握した情報を、夏休み企画展等にあたっての企画立案に活かしている。

要求水準－施設管理

施設及び設備の適切な保守管理をとおして、故障や事故のない運営を行う

評価項目

(1) 適切な管理運営の確保

社会的責任	・法令等の遵守 ・個人情報 ・情報公開の状況
建物や設備の管理	・点検、修繕の実績 ・業務委託の状況
危機管理	・風水害、火災、地震、盗難等危機管理対策 ・マニュアルの作成 ・職員研修

状況説明

- 1 社会的責任
 - ・公益財団法人高知県文化財団の各種規程により、法令を遵守した管理運営を行っている。
- 2 建物や設備の管理
 - ・修繕の実施金額は 3,095 千円であり、主たる修繕は下記のとおり。
 正面玄関シャッター駆動機器取替及び安全装置設置 723 千円、
 電力引込用開閉器取替 494 千円、
 空調設備制御機器取替 5件 344 千円、
 館内 LAN 修繕 253 千円
 収蔵庫ハロン消火器修理等消防関係修理 274 千円 他 14 件
 - ・建物屋外・藤並の森の管理に関するもの
 植栽管理作業 987 千円、
 支障木除去作業 432 千円、
 門扉等修理 113 千円
 - ・館施設の管理・点検は、空調・電気・清掃・機械装置等を中心に、各種免許を持つ高知県の指名業者の中から入札等で選定した業者に委託して行っている。
- 3 危機管理
 - ・風水害、地震、火災等の危機管理については、防火管理者を選定し対応マニュアルに沿って管理している。
 - ・役割分担のマニュアルを配布し自分の対応部署の把握に努め、防火(防災:地震対応型)訓練を実施して、万に備えている。

評価	理由
B	上記により、適正な管理運営が遂行されたと認められる。

評価項目	
(2)利用者サービスの維持向上	
サービス向上への取り組み	・利用者の意見の反映 ・自己点検 ・評価の状況 ・事故、クレームへの対応 ・職員の専門性の向上 ・研修の実施状況 ・その他サービス向上の取り組み

状 況 説 明
<p>1 利用者の意見の反映 展覧会ごとの実態(性別、年齢、来館数、観覧者の住所、来館のきっかけ、展示内容等各種評価等)を集計し分析評価しながら、様々な年齢層に対応する企画展開催をはじめ、いただいた意見はサービス向上のための基礎資料として改善すべきところはタイムリーに対応し、良好な施設づくりに取り組んだ。</p> <p>2 自己点検 ・県担当課との自己点検報告等において、問題点の洗い出しを第三者の客観的な視線により評価していただき、改善すべき点は館内の全体会において協議し改善を図っている。 ・CS(顧客満足)運動の実施により、職員が事業運営や職員活動に対する様々な意見を出し合い、毎月の目標を設定しながら、サービスの改善に取り組んだ。</p> <p>3 評価の状況 来館者アンケート「顧客満足度」によると、「大変良い」、「良い」の評価が9割を超えている。</p> <p>4 職員の専門性の向上と研修の実施状況 ・職員の専門性向上のために、全国文学館協議会や瀬戸内文学館連絡協議会への研修参加や、東京文化財研究所主催の保存関係の専門研修に参加。それぞれの専門分野の知識向上スキルアップに努め、実践につないだ。また、県外の展覧会視察や民間の展示方法等の研究により発想力を研鑽し企画展や催事を行い、顧客サービスの改善に努めた。</p>

評 価	理 由
B	・上記により、利用者サービスの維持向上に努めたと認められる。

評価項目	
(3)利用実績	
利用実績の状況	・利用状況の分析

状況説明	
1	<p>利用実績の状況</p> <p>開館日数 338日 うち企画展開催日数274日 (H25実績 347日 うち企画展開催日数297日)</p> <p>総利用者数 48,019人 (H25実績 56,811人 対前年比 80.8%)</p> <p>うち 常設観覧者数 2,115人 (" 1,385人 " 152.7%)</p> <p>うち 企画展観覧者数 19,577人 (" 27,127人 " 72.2%)</p> <p>うち 教育普及事業参加者数 14,586人 (" 16,476人 " 88.5%)</p> <p>うち ホール・茶室利用者数 11,741人 (" 11,823人 " 99.3%)</p>
2	<p>利用状況の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総利用者数が前年度実績を8,792人下回っているが、これは、エレベーター工事及び収蔵庫空調機器更新工事により21日間の休館を余儀なくされたことによる。 ・夏休み企画展は開催期間中の天候不順の影響があったものとみられる。 ・一方、常設観覧者数は、企画展観覧者数の重複を除いた実績でも、ここ数年、前年度実績を上回り、展示内容の更新の効果があらわれたものとみられる。 ・教育普及事業について、「児童生徒文学作品朗読コンクール」や「記念講演会」など学校へのアピールや講師選定の工夫などで増加傾向にあり評価が定着してきたものもある一方で、年間を通じて活動するプログラムである「文学カレッジ・文学専門講座」や「語りと紙芝居の会」などは年によって変動がある。

評価	理由
A	・工事による休館や天候等の影響があったものの、常設展、企画展の目標観覧者数(20,000人)を上回る21,692人の観覧実績があった。

評価項目	
(4)収支の状況	
経営努力	・収入増加の取り組み ・経費削減の取り組み

状況説明
<ul style="list-style-type: none"> ・優良な企画展の開催といつ来ても新鮮な常設展を合い言葉に観覧者の来館推進を図った。 ・ミュージアムショップにおいても企画展と連動したグッズの販売を行い、販売促進を行った。 26年度実績 ミュージアムショップ売上額 約1125万円 ・経費の中で一番大きなウエイトを占める電気料の削減について、不用な部分のこまめな消灯、空調機器の一斉稼働の防止(冷房開始時の稼働電力が大きな電力消費となりデマンド上昇の原因となるため)等により、消費電力の削減を図った。 ・消耗品の在庫見直しによる無駄な購入の防止、コピー機・印刷機の有効活用による使用料削減、等を行った。展示物の外注を職員自作によるキャプション・展示物にすることにより、委託料や印刷費の削減を行った。 ・3年連続で特定費用準備資金を積み立てることができた。

評価	理由
A	・上記により、収入増加や経費削減の取り組みの努力が認められる。

総合評価

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・常設展示の計画的充実や魅力ある企画展の開催をはじめ、データ等に基づく戦略的情報発信など着実な取り組みの成果があらわれている。 ・アンケート調査においても、接客や環境・快適性について高評価を得ており、優れた管理運営、事業の遂行がされたと認められる。

評価基準

- 「A」 要求水準を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされた。
- 「B」 概ね要求水準どおりであり、適正な管理運営・事業の遂行がされた。
- 「C」 要求水準に達しない面があり、改善のための工夫や努力が必要。
- 「D」 管理運営・事業の遂行が適正に行われたとはいえず、大いに改善を要する。